

いきいき農家のお母さん のどか ~野土花ブランドを食卓へ

遠藤 純子 (えんどう じゆんこ)
 東鷹栖食品加工販売協議会 代表

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しく-北海道」運動第6回コンクールで優秀賞を受賞した「東鷹栖食品加工販売協議会」代表の遠藤純子さんにお話をお伺いしました。

《閉校した校舎を利用して》

東鷹栖地区は、北海道の中心部旭川市の北東部に位置し、「大雪山」に囲まれた田園風景が広がる町です。この地区は道内の中でも有数な米どころになりますが、お米のほかにトマトや大豆・青なんばん・しそなど、ミネラル豊富な農作物を作っています。

平成9年に閉校になった校舎を「何かに利用できないか」ということで、この地区の農家のお母さんたちから「ぜひ、食品加工場を作ってほしい」という話がありました。そこで東鷹栖食品加工協議会を旭川市の試みの一つとして立ち上げ、加工場室のほかに一般の体験室を建設し、食品加工施設として再利用することになりました。これをきっかけに、加工販売を行いたいというグループを東鷹栖地区の農家のお母さんたちから募り、地元で作られた農産物を利用して加工品を作ることになりました。

平成15年に旭川市東鷹栖農村活性化センター「野土花」が完成し、6グループが集まり加工品を製造、翌年には本格的に販売活動も開始しました。



野土花ブランドの商品の一部



各グループの代表の笹川さん、遠藤さん、原さん、谷さん（左から）

《野土花ブランドづくり》

現在、6グループ約25名で活動しています。2ヶ月に1度、各グループの代表が集まり、各グループごとの日程を決めローテーションを組んで作業を行っています。農繁期以外は年中活動していますが、特に冬期間はフル活動での作業となりとても忙しくなります。本業の農家の仕事との両立は最初は大変でしたが、家族の協力はもちろん、仲間と協力しながら行うことにより継続して活動することができています。

主な加工品は、米こうじ、みそ、トマトジュース、しそジュース、なんばんみそ、笹だんご、つけもの各種など約20種類以上にもなります。加工品はそれぞれグループごとに違いますが、商品に貼るラベルのロゴを統一することで一体感が生まれています。

そのほか、一般の人を対象に料理教室を年2回行っています。その中でも、みそづくりや豆腐づくりがとても人気で、手作りした味は格別ということです。

販売先は主に、「JAたいせつ農産物直売所」に卸しています。また「田んぼアート」などのイベントに参加して販売を行ったりしています。

これからも、丹精込めて作った農産物で、安心安全な加工品を食卓へ、ぜひ次世代の人たちに野土花ブランドを引き継いでいってほしいと、ステキな笑顔でお話ししてくださいました。



※当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しく-北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。